



福岡観世会 第一回

令和七年



能 頼 政 親 世 清 和
より まさ

狂 言 文 荷 野 村 万 禄
ふみにない

能 賀 茂 今 村 一 夫
か も



と き / 令和7年 5月17日(土) 午後1時始(12時開場)

と ころ / 大濠公園能楽堂

入 場 券 / 第一回・第二回繰り券 ▶ 指定席…18,000円・自由席…14,000円
 単券(当日券) ▶ 指定席…10,000円・自由席…8,000円

※繰り券をご購入の場合、第一回の指定席券・自由席券は第二回の自由席券として、
 第二回の指定席券・自由席券は第一回の自由席券としてご利用いただけます。

発 売 所 / 大濠公園能楽堂 ☎092-715-2155

仕舞

雲林院クセ 長宗 敦子
胡蝶 菊本 澄代

多々島法子 美貴
菊本 宮子
今村 晶子
木月

能

前ツレ 井内 政徳
天女 多々島法子

今村 一夫

賀茂

矢野 昌平
福王 知登
村瀬 提

大鼓 白坂 保行
小鼓 幸 正佳
太鼓 田中 達
笛 森田 光次

後見 森本 哲郎
山本 章弘

小倉要二郎 久保誠一郎
杉浦悠一郎 鷹尾 維教
今村 哲朗 多々島利之
山口剛一郎 坂口 貴信

△休憩 十五分△

文荷

狂言 杉山 俊広
野村 万祿 吉良 博靖
後見 雪野 洸太

老松 多々島利之
東北キリ 武田 尚浩
女花 観世三郎太
国栖 山本 章弘

△休憩 十分△

頼政

親世 清和
福王茂十郎
野村 万祿

大鼓 白坂 信行
小鼓 飯富 章宏
笛 相原 一彦

後見 坂口 貴信
武田 尚浩
久田 勤吉郎
今村 哲朗
今村 嘉太郎
久保誠一郎
鷹尾 章弘
坂口 信男
岡 久広
観世三郎太

終演予定午後五時二十五分頃

◆賀茂(かもし)

六月の「賀茂」、十二月の「和布刈」と言われ、親しまれている曲です。夏の夕べ、播磨の国は室の神職が賀茂社に参詣すると、川のほとりに新しい祭壇が築かれており白羽の矢が立てられておりました。そこへ水汲みに現れた上品な女性は、昔々、秦氏女が川で白羽の矢を拾い懐妊し別雷神を産んだこと、この別雷神と母親と矢が賀茂三所のご神体であると語り、川瀬の名所を美しく歌い上げ、実は我が身がその神だと打ち明けて姿を消しました。妙なる音楽が流れ、御祖神が現れ天女の舞を舞います。その後、早笛にて颯爽と御幣を持った別雷神が登場し、豪快に舞動を見せます。五穀成就と国土安穩の守護を寿ぐ気の満ち満ちた舞台をどうぞお楽しみください。

◆文荷(ふみにい)

主人がしたためた手紙を相手のもとへ届けることになった太郎冠者と次郎冠者。手紙を竹竿に結び付け二人で担ぐと、恋にまつわる小歌を歌いながら運びます。しかし途中からその手紙がなぜか重くなったと感じて……

◆頼政(よしまさ)

齢七十六にして、平家打倒の兵を挙げ、宇治平等院にて自害した源三位頼政の、宇治合戦の物語です。宇治に立ち寄った旅僧が辺りの景色を眺めていると、老人が現れ、僧から問われるままに、横の島や橋の小島、朝日山と名所旧跡を教え、更に平等院へと誘います。平等院の釣殿の前、扇型に残された芝は、昔、高倉帝を奉じて拳兵した頼政が敗戦を悟り、この芝に扇を敷いてその上で自害した跡であり、折しも今日はその命日、そして自分こそは頼政の霊なのだとか明かし消え去るのでした。そこに現れた里人によってより詳しく頼政の伝説を聞いた僧は、経を上げて弔い、扇の芝に旅装を取ります。夜も深まり、合戦装束に僧衣を纏った頼政の霊が現れました。奈良へ敗走の道すがら、お疲れの色濃い宮様のために平等院に布陣し、宇治橋の橋板を外して敵を待ち受け、川を挟んでの戦となった経緯。平家方の田原又太郎忠綱との攻防。次第に明らかになる敗北の気配。今はこれまでもと平等院の芝に扇を敷き、座して詠む辞世の句一理もれ木の花咲くこともなかりしに身の成る果ては哀れなりけり。自刃したその跡が世に言う扇の芝なのだと言われ、僧に回向を頼み、草陰に消えるのでした。「頼政」という面はこの曲のみに使い、髭のない老体の顔に金の入った目が独特ですが、これは気骨溢れる老武者の誇りの中にも、戦に敗れ二子まで失い自害した無念の表現とも言われます。また頼政頭巾と称される被り物は法体であることを示しております。



指定席 (その他は棧敷席を含めて自由席となります。)

第二回 予告

【とき】令和八年 一月二十四日(土)
午後二時始(十二時開場)
【ところ】大濠公園能楽堂

能 玉 髪 今村嘉太郎

能 樋の酒 野村 万祿

能 春日龍神 森本 哲郎